

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年五月度 入選句（投稿総数三百七十四句・一般投句数三百四十七句）

特選

五月くる音なき街にひとりゆく

大垣市

秋山 くに子

コロナ禍で自粛の日々が続いている。いくつかの行事や集まり、句会もなくなつた。シャッターの
おりた、人も通らない街を作者は、子どもたちのこと、さらにはこれからの自分のことなどを考
えながら歩く。いつまで続くかわからないコロナ禍。もうこれまで通りの生活は戻ってこない。

花筏こはさぬやうに鍬洗ふ

大垣市

村田 通夫

野川にも花筏が寄りては離れ、ゆつくりと流れていく。畑仕事を終えた作者は、その一面の花
筏の川に鍬をあらふ。花筏の容を愛で、その川の流れをこわさぬようには、作者のこれまでの
生き方かもしれない。

衣更かすかに天の匂いして

大垣市

大杉 すみゑ

衣更の季節だ。手足を日光にかざす面がぐつとふえる色彩や白や、はたまた太陽に負けじと
ばかり元気な色が増える。衣更した生き生きとした人々に雲も天も眩しそうだ。そこに天の匂
ひを感じた作者に脱帽。

秀逸

葱坊主つむり百僧雨に佇つ

不破郡垂井町

西田 厚堂

新庁舎花に乗るかに光りおり

大垣市

岡田 けい子

上り鮎跳ね返されて光飛ぶ

不破郡垂井町

富田 実郎

ポニーテールの弓持つ少女風青し

岐阜市

田中 淳子

車間距離人間距離や新樹光

東京都北区

菱沼 多美子

夕焼のしづかに満たす輪中かな

愛知県名古屋市

舘野 茂子

美濃渡る野の風孕む鯉のぼり

大垣市

早崎 美弥子

春の空めがけて蹴るや逆上り

不破郡垂井町

児玉 信子

待つ人のいる明るさの春灯

不破郡垂井町

大羽 志津子

咲き初めてすぐに押し合ふ桜かな

安八郡神戸町

高橋 泰

入選

ふるさと	は過疎なり	千本桜あり	東京都世田谷区	関戸	信治
指先に	滲む鮮血	桜桃忌	埼玉県川口市	木下	洋子
集ふこと	あらずひとり	の新茶汲む	大垣市	白井	秀子
聖五月	両手に	掬ふ鳥の声	神奈川県大和市	岩田	爾瑠
自転車の子	を振り返る	聖五月	大垣市	北島	暁子
シヤッター	の閉ずる街	並春の雨	大垣市	早崎	美弥子
全身に	桜のかほり	街薄暑	大垣市	小林	研
夜の静寂	ふとよみがへる	祭笛	大垣市	高木	歌佐
朝靄に	けふる伊吹嶺	夏隣	大垣市	久保田	悟義
鞆や	今を忘れし	父つれて	三重県四日市市	後藤	允孝

入選

テレワーク	しながら	蓬餅齧る	三重県鈴鹿市	松井	政典
雨降れば	雨に寝転ぶ	姫女苑	宮城県名取市	松本	裕子
荷風忌	や日記は欠かさず	つけ続け	愛知県岩倉市	石川	うしゆ
しやぼん	玉はじける音に	耳澄ます	大垣市	大原	巖
菜の花	や幸せの色	輝かせ	兵庫県豊岡市	辻井	一路
花びらの	落つる音聴く	春愁	安八郡安八町	牧村	華世
沖へ沖へ	色を違えて	春の海	神奈川県横浜市	龍野	ひろし

選者吟

柳絮とぶ影なく音なく疫ふかむ

さち子